ApsaraDB for RDS

クイックスタート (SQL Server)

MORE THAN JUST CLOUD | Alibaba Cloud

クイックスタート (SQL Server)

機能制限

SQL Server のRDSインスタンスはすべて Microsoft SQL Server のライセンスが与えられ、ユーザー自身のライセンスの使用はサポートされません。さらに、インスタンスの安定性とセキュリティを保証するために、SQL Serverは一定の制限があります。

機能	高可用版シリーズ		ベーシック版シリーズ
	2016 Standard, Enterprise 2012 Standard, Enterprise	2008 R2 Enterprise	2016 WEB 2012 WEB 2012 Enterprise
データベースの最大数（注）	50	50	100
データベース・アカウントの最大数	制限なし	500	制限なし
ユーザー、データベースの作成とLOGIN（注）	サポートされています	サポートされています	サポートされています
データベースレベルのDDLトリガー	サポートされています	サポートされていません	サポートされています
データベース内の権限付与	サポートされています	サポートされていません	サポートされています
KILLの許可	サポートされています	サポートされています	サポートされています
LinkServer	サポートされています	サポートされていません	サポートされていません
分散トランザクション	サポートされています	サポートされていません	サポートされていません
SQLプロファイラ	サポートされています	サポートされています	サポートされています
チューニングアドバイザ	サポートされています	サポートされていません	サポートされています
チェンジ・データ・キャプチャ（CDC）	サポートされています	サポートされていません	サポートされています
変更追跡	サポートされています	サポートされています	サポートされています

Windowsのドメインアカウントのログイン	サポートされていません	サポートされていません	サポートされていません
Eメール			
SQL Serverの統合サービス（SSIS）			
SQL Serverの分析サービス（SSAS）			
SQL Serverレポートサービス（SSRS）			
R言語サービス			
共通言語ランタイム（CLR）			
非同期通信			
レプリケーション			
ポリシー管理			

注意：

SQL Server 2016 および 2012 の場合、チケット起票により、データベースの作成可能な最大数を引き上げることを申請可能です。

SQL Server 2008 R2 Enterpriseでは、コンソールまたは OpenAPI を使用してアカウントのログイン、およびデータベースを管理できます。

SQL Server 2012 以降のバージョンでは、コンソールまたは OpenAPI を使用して初期アカウントを作成し、初期アカウントで SQL 文を使用してアカウントの管理、データベースの管理および LOGIN 可能です。

セキュリティ上の理由から SQL Server は sysadmin 権限を提供していませんので、ご了承ください。

ApsaraDB の概要

クイックスタートの目的

このドキュメントでは、RDSインスタンスの購入から使用までの手順を説明します。また、RDSインスタンスでApsaraDBを作成する基本的な設定と、インスタンスデータベースへの接続方法について詳しく説明します。

ターゲットリーダー

ApsaraDB for RDSインスタンスを初めて購入したユーザー。

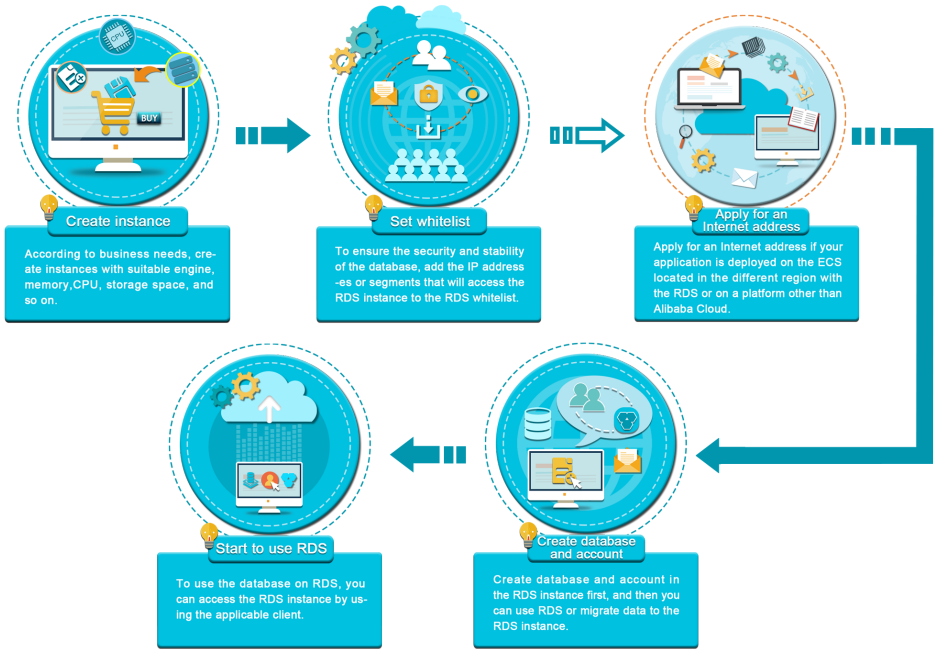
作成したインスタンスの基本設定を実行する必要があるユーザー。

ApsaraDB for RDSインスタンスに接続する方法を知りたいユーザー。

クイックスタートフローチャート

初めてAlibaba Cloud ApsaraDBをRDSに使用する場合は、「ApsaraDB for RDSの制限事項」と「ApsaraDB for RDSコンソール」を参照してください。

次の図は、インスタンスの作成から使用までの手順の説明になります。



インスタンスの作成

Alibaba Cloud ApsaraDB for RDS コンソールまたは API を使用して、ApsaraDB for RDS インスタンスを作成できます。インスタンスプルーシングの詳細については、「ApsaraDB for RDS の価格設定」 を参照してください。このドキュメントでは、ApsaraDB for RDS コンソールを使用してインスタンスを作成する方法について説明します。API を使用してインスタンスを作成する方法の詳細については、「RDS インスタンスの作成」 を参照してください。

前提条件

Alibaba Cloud アカウントに登録済みであること。

操作手順

RDS コンソールにログインします。

インスタンスリスト ページで、 **インスタンスの作成** をクリックして、 **インスタンスの作成** ページに移動します。

サブスクリプション または **従量課金** を選択してください。課金方法の詳細については、価格の説明 を参照してください。

インスタンス構成を選択します。パラメータは次のように記述されます。

基本設定

リージョンとゾーン：選択リージョンとインスタンスが配置されているゾーン。単一のゾーンまたはマルチゾーンをサポートするリージョンもあれば、単一のゾーンのみをサポートするリージョンもあります。詳細については リージョンとゾーン を参照してください。

> **注：** 異なる地域の製品はイントラネットを介して相互に通信することはできず、インスタンスを購入した後でインスタンス領域を変更することはできません。そのため、リージョン選択するときは注意してください。

データベースエンジン：RDS は、MySQL、SQL Server、PostgreSQL、および PPAS をサポートします。異なる地域では、異なるデータベースタイプがサポートされています。このドキュメントを使用する場合は、実際のインターフェイスを参照してください。

バージョン：データベースのバージョン。現在、RDS は MySQL 5.6、SQL Server 2008 R2、および PostgreSQL 9.4 をサポートしています。異なる地域で異なるデータベースのバージョンがサポートされています。このドキュメントを使用する場合は、実際のインターフェイスを参照してください。

MySQL データベースの場合、MySQL 5.6 を選択することをお勧めします。これは、データファイルの占有スペースを大幅に削減してストレージコストを削減できる TokuDB ストレージエンジンをサポートするためです。

SQL Server 2008 R2 および SQL Server 2012 (**日本サイトでは未提供**)では、さまざまな機能がサポートされています。詳細は SQL Server 2008 R2 と SQL Server 2012 の機能の違い を参照してください。

シリーズ：RDS インスタンスは、Basic Edition、High Availability Edition、および Finance Edition をサポートします。異なるデータベースバージョンは異なるシリーズをサポートします。このドキュメントを使用する場合は、実際のインターフェイスを参照してください。

ネットワークタイプ：RDS は従来のネットワークと仮想プライベートクラウド（VPC）をサポートします。あらかじめ VPC を作成する必要があります。また、インスタンスの作成後にネットワークタイプを変更することもできます。詳細は、ネットワークタイプの設定 を参照してください。

タイプ：インスタンスが占有する CPU およびメモリ。接続数と最大 IOPS（読み書きの場合はそれぞれ測定され、混合読み書きの場合はベンチマークの最大 2 倍）は、タイプによって異なります。インスタンスタイプの詳細については、インスタンスタイプ一覧 を参照してください。

ストレージ：ストレージスペースには、データ、システムファイル、bin ログファイル、およびトランザクションファイル用のスペースが含まれています。

サブスクリプション期間：サブスクリプションインスタンスの期間を設定します。

数量：購入する同じ構成のインスタンスの数。

今すぐ購入 をクリックして **注文の確認** ページに入ります。

[サービス利用規約とサービスレベル通知に同意します] の横にあるチェックボックスをオンにしてから：

インスタンスの請求方法がサブスクリプションの場合は、**支払い** をクリックします。

インスタンスの請求方法が従量課金の場合は、**有効化** をクリックします。

初期設定

ホワイトリストの設定

ホワイトリストは、指定されたIPアドレスおよび特定のIPセグメントへのアクセスを制限するために使用されます。ホワイトリストが設定されていない限り、データベースインスタンスにアクセスすることはできません。RDSのセキュリティを維持するために、要件に応じてホワイトリストを定期的に確認して調整することをお勧めします。この章では、主にホワイトリストを設定する方法を紹介します。

背景

イントラネット、インターネット、またはイントラネットとインターネットの両方を介してRDSインスタンスにアクセスできます。各接続タイプ（イントラネットとインターネット）の適用シナリオの詳細については、イントラネットアドレスとインターネットアドレスの設定を参照してください。

接続タイプを設定する前に、アプリケーションサービスのIPアドレスまたはIPセグメントまたはECSインスタンスをRDSインスタンスのホワイトリストに追加する必要があります。ホワイトリストが設定されると、システムは自動的にRDSインスタンスのイントラネットアドレスを生成します。インターネットアドレスが必要な場合は、インターネットアドレスの申請の詳細な手順を参照してください。

> **注意**：アプリケーションサービスのIPアドレスをホワイトリストに追加した後にRDSインスタンスに接続できない場合は、アプリケーションサービスの実際のIPアドレスを取得する必要があります。

注意

システムは、新しく作成したRDSインスタンスごとに**デフォルト**ホワイトリストグループを自動的に作成します。この**デフォルト**ホワイトリストグループは、変更または消去のみできますが、削除することはできません。

新しく作成されたRDSインスタンスごとに、ローカルループバックIPアドレス127.0.0.1がデフォルトの**ホワイトリストグループ**にデフォルトで追加されます。これは、すべてのIPアドレスまたはIPセグメントがこのRDSインスタンスにアクセスすることを禁止されていることを意味します。したがって、他のIPアドレスまたはIPセグメントをRDSホワイトリストに追加する前に、まず**デフォルト**ホワイトリストグループから127.0.0.1を削除する必要があります。

%または0.0.0.0/0は、IPアドレスがRDSインスタンスへのアクセスを許可されていることを示します。この構成では、データベースのセキュリティが大幅に低下するため、お勧めしません。

操作手順

[RDSコンソール]にログオンします。

選択リージョンターゲット・インスタンスが配置されている場所。

ターゲットインスタンスの名前をクリックすると、**基本情報**ページに移動します。

左側のナビゲーションバーで **セキュリティコントロール**を選択して **セキュリティコントロール** ページにアクセスしてください。

ホワイトリスト設定タブページで、**デフォルト**ホワイトリストグループの**変更**をクリックします（次の図を参照）。

> **注意**：カスタムホワイトリストグループをRDSインスタンスに追加する場合は、**デフォルト**ホワイトリストグループの**クリア**をクリックして、IPアドレス127.0.0.1を最初に削除してから、 **ホワイトリストグループを追加**をクリックします。カスタムホワイトリストの設定手順は、次の手順と似ています。

グループの変更ページで、**ホワイトリスト**フィールドのRDSインスタンスにアクセスするIPアドレスまたはIPセグメントを追加します。ECSイントラネットIPアドレスを追加する必要がある場合は

、次の図に示すように、[**ECSイントラネットIPアドレスのアップロード**]をクリックし、プロンプトに従ってIPアドレスを選択します。

パラメータの説明：

グループ名：小文字、数字またはアンダースコアを含む2～32文字を含むことができます。グループ名は、小文字で始まり、文字または数字で終わらなければなりません。この名前は、ホワイトリストグループが正常に作成されたときは変更できません。

ホワイトリスト：RDSインスタンスにアクセスできるカスタムIPアドレスまたはIPセグメントを入力できます。

- 10.10.10.0/24などのIPセグメントを入力すると、10.10.10.Xという形式のIPアドレスがRDSインスタンスにアクセスできることを示します。

複数のIPアドレスまたはIPセグメントを入力する必要がある場合は、192.168.0.1,172.16.213.9など、コンマ(,)で区切ります（空白を追加しないでください）。

- ホワイトリストグループごとに、MySQL、PostgreSQLインスタンスに対して最大1,000のIPアドレスまたはIPセグメントを設定できます。 SQL Serverインスタンスには最大800まで設定できます。

ECSイントラネットIPアドレスのアップロード：このボタンをクリックすると、ECSイ

ントラネットIPアドレスを追加する簡単な方法である、RDSインスタンスと同じアカウントのECSインスタンスのイントラネットIPアドレスを選択できます。1. OK をクリックします。

ホワイトリストグループの変更または削除

ビジネス要件に応じて、ホワイトリストグループを変更または削除することができます。詳細な操作手順は次のとおりです。

RDSコンソールにログオンします。

選択リージョンターゲット・インスタンスが配置されている場所。

ターゲットインスタンスの名前をクリックすると、**基本情報**ページに移動します。

左側のナビゲーションバーで **セキュリティコントロール** を選択して **セキュリティコントロール** ページにアクセスしてください。

ホワイトリストの設定タブページで、対象のホワイトリストグループの**変更**または**削除**をクリックします。

IPアドレスまたはIPセグメントを変更したら、 **[OK]** をクリックします。または、削除するホワイトリストグループであることを確認する場合は、 **[確認]** をクリックします。

インターネットアドレスの申請

アプリケーションのデプロイ先の ECS インスタンスが、RDS インスタンスと同じリージョン内にあり、RDS インスタンスと同じ**ネットワークタイプ**を持つ場合、インターネットアドレスは必要ありません。アプリケーションのデプロイ先の ECS が、RDS インスタンスと異なるリージョン内にあるか、RDS インスタンスと異なるネットワークタイプを持つ場合、または、アプリケーションが Alibaba Cloud 以外のプラットフォームにデプロイされる場合、RDS インスタンスにアクセスするにはインターネットアドレスが必要です。

注意: 同じリージョンにあるインスタンスはイントラネット経由で互いに通信できます (ゾーンは異なっていてもかまいません)。

背景情報

RDS では、イントラネットアドレスとインターネットアドレスを介した接続が利用できます。接続モードとインスタンスタイプにより、接続アドレスの選択は次のような違いがあります。

インスタンスシリーズ	インスタンスバージョン	アクセスモード	接続アドレス
HA デュアルノードエディション	- MySQL 5.5/5.6 - SQL Server 2008 R2 - PostgreSQL 9.4 - PPAS 10	標準モード	- イントラネットアドレス - インターネットアドレス
		安全接続モード	- イントラネットアドレス - インターネットアドレス - イントラネットアドレスとインターネットアドレス

それぞれの接続アドレスを適用できるシナリオは次のとおりです。

イントラネットアドレスのみを使用:

イントラネットアドレスはデフォルトで提供され、接続アドレスは直接変更できます。

アプリケーションのデプロイ先の ECS インスタンスが、RDS インスタンスと同じリージョン内にあり、RDS インスタンスと同じネットワークタイプを持つ場合、この接続方法を適用できます。

インターネットアドレスのみを使用:

アプリケーションのデプロイ先の ECS インスタンスが、RDS インスタンスのリージョンと異なるリージョン内にある場合、この接続方法を適用できます。

アプリケーションが Alibaba Cloud 以外のプラットフォームにデプロイされる場合、この接続方法を適用できます。

イントラネットアドレスとインターネットアドレスを両方使用:

アプリケーションが、異なるリージョンにある複数の ECS インスタンスにデプロイされ、そのうちのある ECS インスタンスが、RDS インスタンスと同じリージョン内にあり、RDS インスタンスと同じネットワークタイプを持つ場合、この接続方法を適用できます。

アプリケーションのデプロイ先の ECS インスタンスが、RDS インスタンスと同じリージョン内にあり、RDS インスタンスと同じネットワークタイプを持ち、さらにアプリケーションが Alibaba Cloud 以外のプラットフォームにデプロイされる場合、この接続方法を適用できます。

注意

データベースにアクセスする前に、データベースへのアクセスに使用する IP アドレスまたは IP セグメントをホワイトリストに追加する必要があります。詳細については、「ホワイトリストの設定」を参照してください。

トラフィック料金はインターネットアドレスを使用した接続に対して発生します。価格と料金の詳細については、RDS の料金ページを参照してください。

インターネットアドレスを使用して RDS インスタンスに接続する場合、インスタンスのセキュリティが低下する可能性があります。この方法は慎重に使用してください。伝送速度とセキュリティレベルの向上のために、アプリケーションを RDS と同じリージョンの ECS インスタンスに移行することをお勧めします。

手順

RDS コンソールにログインします。

対象のインスタンスが存在するリージョンを選択します。

対象のインスタンスの ID をクリックして、[**基本情報**] ページに移動します。

左側のナビゲーションバーで [**データベースの接続**] を選択して、[**データベースの接続**] ページに

移動します。

次の図に示された [**インターネットアドレスの取得**] をクリックします。

表示された確認ウィンドウで、[OK] をクリックしてインターネットアドレスを生成します。

[**接続アドレスの変更**] をクリックし、インターネットまたはイントラネットの接続アドレスおよびポートを変更します (下図を参照)。

パラメーターの説明:

接続タイプ: 変更する接続タイプに応じて、[**イントラネットアドレス**] または [**インターネットアドレス**] を選択します。

接続アドレス: アドレス形式は、xxx.mysql.rds.aliyuncs.com で、*xxx* はユーザー定義フィールドです。アドレスは、アルファベットと数字で構成された 8 ～ 64 文字で指定できます。先頭の文字は小文字のアルファベットである必要があります。

ポート: RDS が外部サービスを提供するポートの番号を指定します。[3200, 3999] の範囲の整数を指定できます。

[OK] をクリックします。

インスタンス基本設定

データベースとアカウントの作成 (SQL Server 2008 R2)

説明：SQL Server 2008 の操作手順の例を説明します。SQL Server 2008 R2 を使用する場合は、データベースとアカウントの作成 (SQL Server 2012) を参照してください。

RDS インスタンスを利用するには、データベースとアカウントの作成が必要です。SQL Server 2008 R2 の場合、RDS コンソールでデータベースとアカウントの作成が可能です。本ドキュメントは SQL Server 2008 R2 にデータベースとアカウントの作成手順を紹介します。

注意

1 つのインスタンスのデータベースでは、このインスタンスのすべてのリソースが共有されます。SQL Server 2008 R2 タイプのインスタンスには、最大 50 データベース、500 アカウントまで作成できます。

ローカルデータベースを RDS に移行する際は、RDS データベースとローカルデータベースで一致する移行アカウントとデータベースをそれぞれ作成する必要があります。

アカウント権限を設定する際、最小権限と業務ロールで行い、読取り専用/書込み権限を適切に設定します。必要な場合、更に区分して各アカウントは該当業務内のデータのみアクセス可能にします。書込みの必要がないアカウントには、読取り専用権限を付与します。

データベースセキュリティのため、アカウントパスワードの強度を高くし、定期的に変更します。

手順

RDS コンソール にログインします。

対象のインスタンスが存在するリージョンを選択します。

対象のインスタンスの名前をクリックして、[基本情報] ページに移動します。

左側のメニューで **アカウント管理** を選択し、[アカウント管理] ページに移動します。

アカウント作成 をクリックします。

アカウント情報を入力します。

項目説明：

データベースアカウント：アカウント名、長さは 2~16 文字、小文字のアルファベット、数字、アンダースコアで構成され、先頭にアルファベットを使用し、末尾にアルファベットまたは数字を使用します。

許可済みデータベース：アカウントにアクセス許可したデータベースです。データベースが作成されてない場合、空欄で可能です。1 つのアカウントに複数のデータベースを許可することは可能です。許可手順は下記となります。

未許可のデータベース から許可するデータベースを選択します。

許可 をクリックし、**許可済みデータベース** に追加します。

各データベースに、**読み取り/書き込み** または **読み取り専用** を設定できます。全部のデータベースに同じ権限を付与する場合、**すべて 読み取り/書き込み** または **すべて 読み取り専用** で設定できます。

パスワード: アカウントのパスワードを指定します。パスワードは 8 ～ 32 文字で、大文字、小文字、数字、特殊文字を使用できます。パスワードには、これら 4 種類の文字のうち、3 種類以上使用する必要があります。

パスワードの確認: パスワードを再度入力して、正しいことを確認します。

備考：アカウントの説明を入力できます。最大 256 英文字まで可能です。

OK をクリックし、アカウント作成完了です。

左側のメニューで **データベース管理** を選択し、[データベース管理] ページに移動します。

データベースを作成 をクリックします。

データベース情報を入力します。

項目説明：

データベース (DB) 名：小文字のアルファベット、数字、アンダースコア、取り消し線で構成され、先頭にアルファベットを使用し、末尾にアルファベットまたは数字を使用します。使用できる文字数は最大 64 文字です。

サポートされる文字コード：データベースのサポートされている文字セットを参照します。適切な文字セットを必要に応じて選択します。

許可されたアカウント：許可するアカウントを選択します。アカウントが作成されてない場合、空欄で可能です。

アカウントタイプ：許可されたアカウントを選択後表示されます。アカウントがデータベースへの権限を設定します。**読み取り/書き込み** または **読み取り専用** に設定できます。

補足：データベースの説明を入力できます。最大 256 英文字まで可能です。

OK をクリックし、データベース作成完了です。

データベースとアカウントの作成（SQL Server 2012 & 2016）

注意：このドキュメントは、SQL Server 2012 と 2016 インスタンスにのみ適用されます。SQL Server 2008 R2 インスタンス用のデータベースおよびアカウントを作成する方法については、「SQL Server 2008 R2 用のデータベースとアカウントの作成」をご参照ください。

RDS を使用するためには、RDS インスタンスでデータベースとアカウントを作成する必要があります。SQL Server 2012 インスタンスの場合は、RDS コンソールで初期アカウントを作成する必要があります。その後で、クライアントからデータベースを作成し、管理できます。このドキュメントでは、Microsoft SQL Server Management Studio (SSMS) クライアントを例として使用して、SQL Server 2012 と 2016 インスタンスのデータベースとアカウントを作成する方法を説明します。

背景情報

同一インスタンス内のデータベースは、このインスタンスのすべてのリソースを共有します。各 SQL Server 2012 と 2016 インスタンスは、1 つの初期アカウント、無制限の一般アカウント、無制限のデータベースをサポートしています。SQL 文を使用して、一般アカウントとデータベースを作成し管理する必要があります。

ローカルデータベースを RDS に移行するには、RDS インスタンスにローカルデータベースと同じデータベース、およびアカウントを作成する必要があります。

各データベースのアカウントに許可を割り当てる際は、最小許可の原則とサービスロールに従ってアカウントを作成し、読み取り専用、および読み取り/書き込み許可を合理的に割り当ててください。必要に応じて、アカウントとデータベースをさらに小さく分割して、各アカウントが自身のサービスに関係するデータにのみアクセスできるようにすることができます。アカウントで、データをデータベースに書き込む必要がない場合は、読み取り専用許可を割り当ててください。

データベースを安全に保護するために、アカウントに強力なパスワードを設定し、パスワードを定期的に変更してください。

操作手順

RDS コンソールにログインします。

対象のインスタンスが存在するリージョンを選択します。

インスタンスの ID をクリックして、[**基本情報**] ページに移動します。

左側のナビゲーションバーで [**アカウント管理**] をクリックして、[**アカウント管理**] ページに移動

します。

次の図に示された [**アカウント作成**] をクリックします。

アカウントを作成するために、関連する詳細情報を必要な項目に入力します。

パラメーターの説明：

データベースアカウント：初期アカウント名を指定します。2 ～ 16 文字の小文字のアルファベット、数字、アンダースコア (_) を指定できます。先頭はアルファベット、末尾はアルファベットか数字にする必要があります。

パスワード：初期アカウントのパスワードを表します。少なくとも次の 3 種類の文字を含む 8 ～ 32 文字で指定できます。

大文字のアルファベット

小文字のアルファベット

数字

S特殊文字 (!@#$%^&*()_-+=)

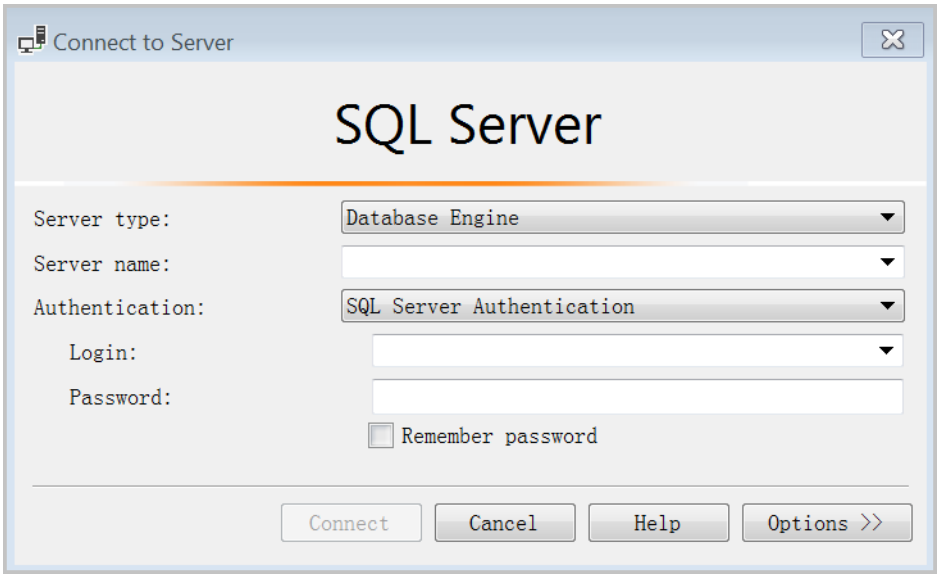
パスワードの確認：正しく入力されていることを確認するためにパスワードをもう一度入力します。

[OK] をクリックすると、初期アカウントが作成されます。

RDS インスタンスにアクセスする IP アドレスを、RDS のホワイトリストに追加します。ホワイトリストの設定方法については、「ホワイトリストの設定」をご参照ください。

Microsoft SQL Server Management Studio クライアントを起動します。

接続情報を入力します (下図を参照)。



パラメーターの説明：

Server type：[Database Engine] を選択します。

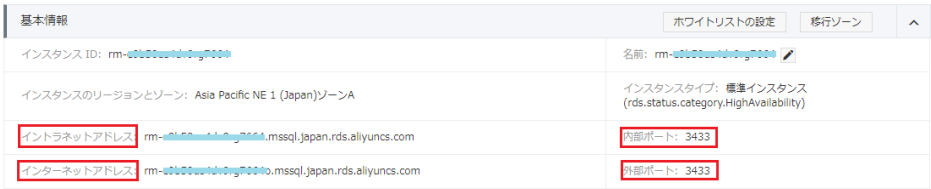
Server name：RDS インスタンスのインターネットアドレスまたはイントラネットアドレスと、それに対応するポート番号で構成されます。接続アドレスとポート番号は rm-bptest.sqlserver.rds.aliyuncs.com,3433 のようにカンマで区切る必要があります。RDS インスタンスの接続アドレスとポート情報を表示する手順を次に示します。

1.RDS コンソールにログインします。

対象インスタンスのリージョンを選択します。

インスタンスの ID をクリックして、[基本情報] ページに移動します。

[**基本情報**] ページでは、インスタンスのインターネット/イントラネットアドレスとインターネット/イントラネットポート番号を確認できます (下図を参照)。



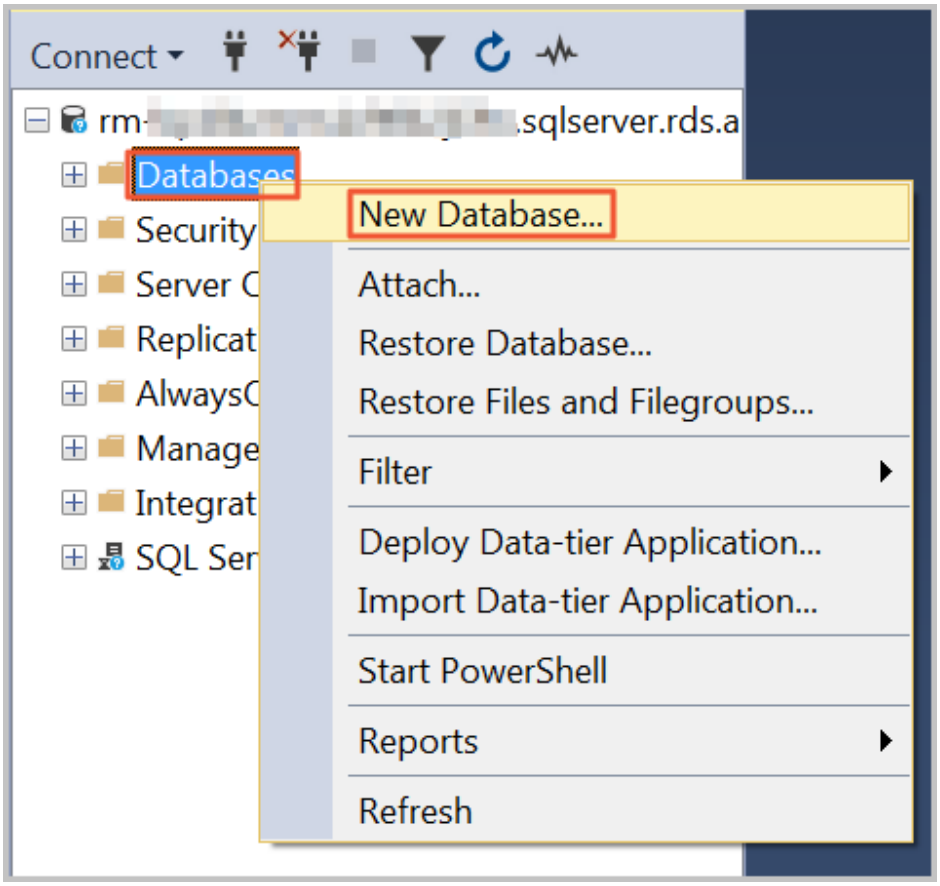
Authentication： [**SQL Server Authentication**] を選択します。

Login：RDS インスタンスの初期アカウント名を指定します。

Password：RDS インスタンスの初期アカウントに対応するパスワードを指定します。

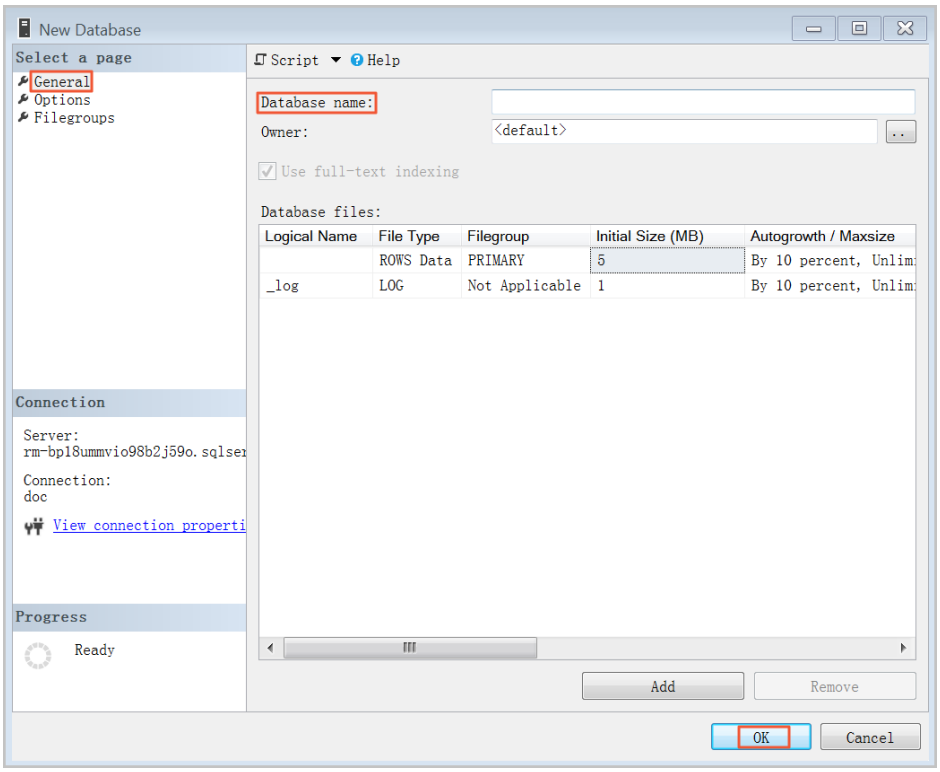
[**Connect**] をクリックします。

[**Databases**] を右クリックして、[**New Database**] を選択します。



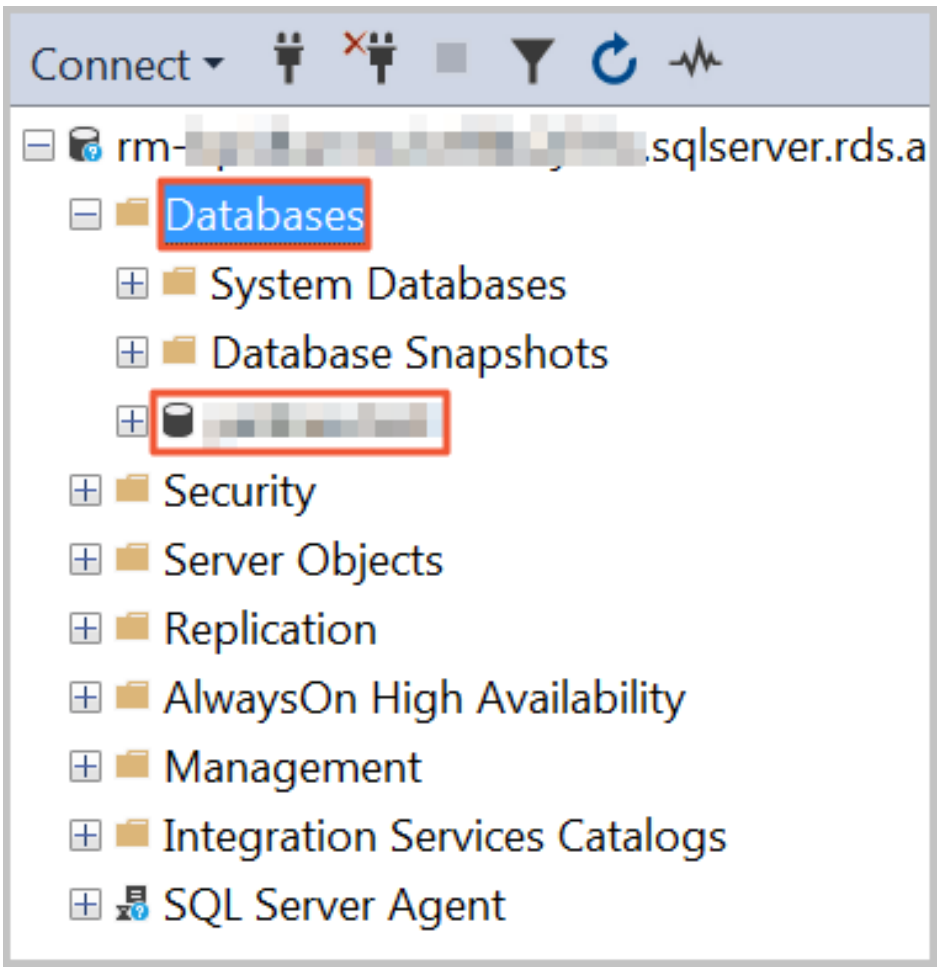
[New Database] ウィンドウで、[General] タブページを選択します。

Database name フィールドに、新しいデータベースの名前を入力し、[OK] をクリックします。

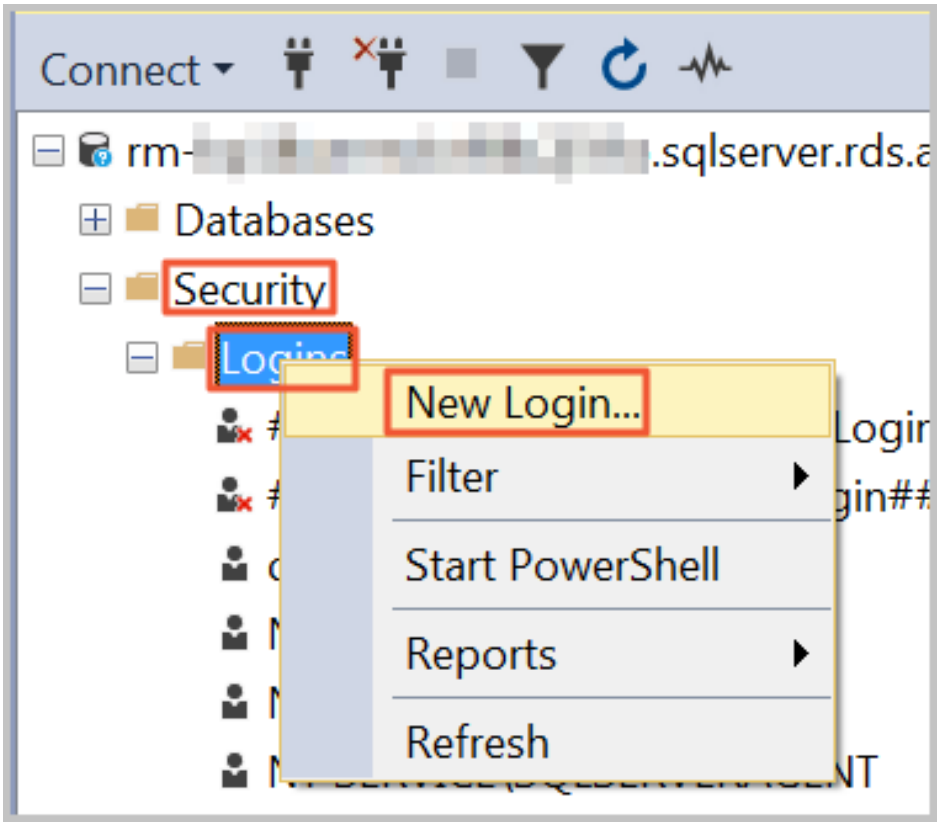


新しいデータベースの作成が正常に終了すると、そのデータベースが [Databases] に表示されます (下図を参照)。

注意：デフォルトの [System Databases] でなんらかの操作をすることはお勧めしません。

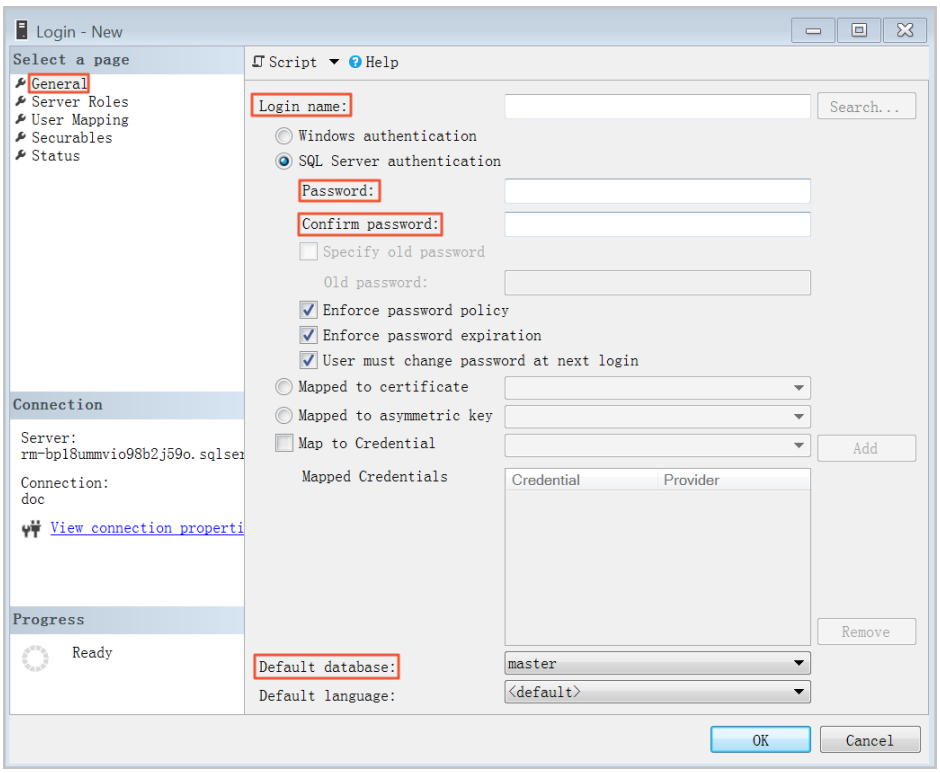


[Security] を選択し、[Logins] を右クリックします。[New Login] を選択して RDS インスタンスに一般アカウントを作成します (下図を参照)。



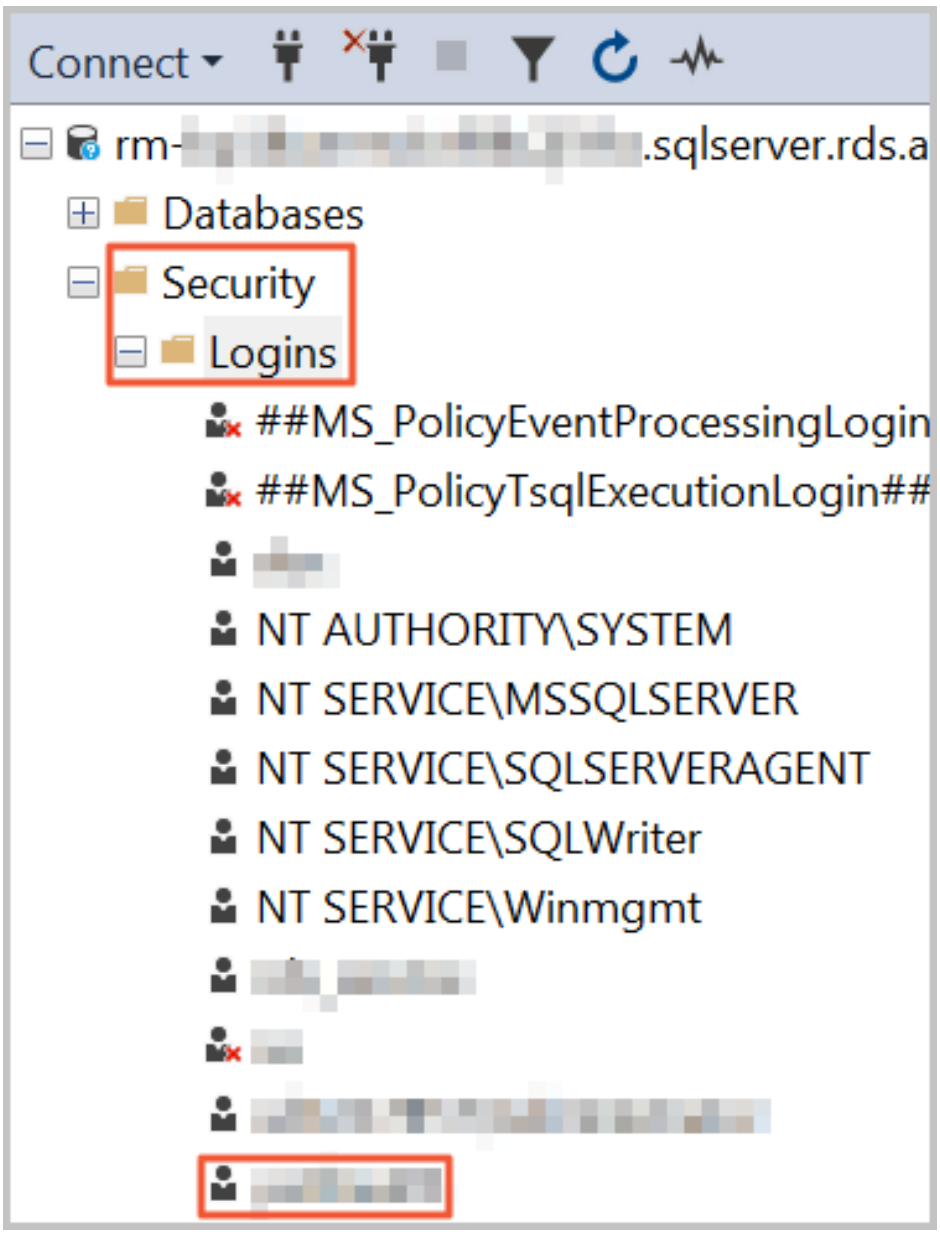
新しいアカウント名とパスワードを入力し、デフォルトのデータベースを選択します (下図を参照)。

注意： [SQL Server authentication] を選択し、ビジネス要件に応じてその他のパスワードポリシーを調整します。

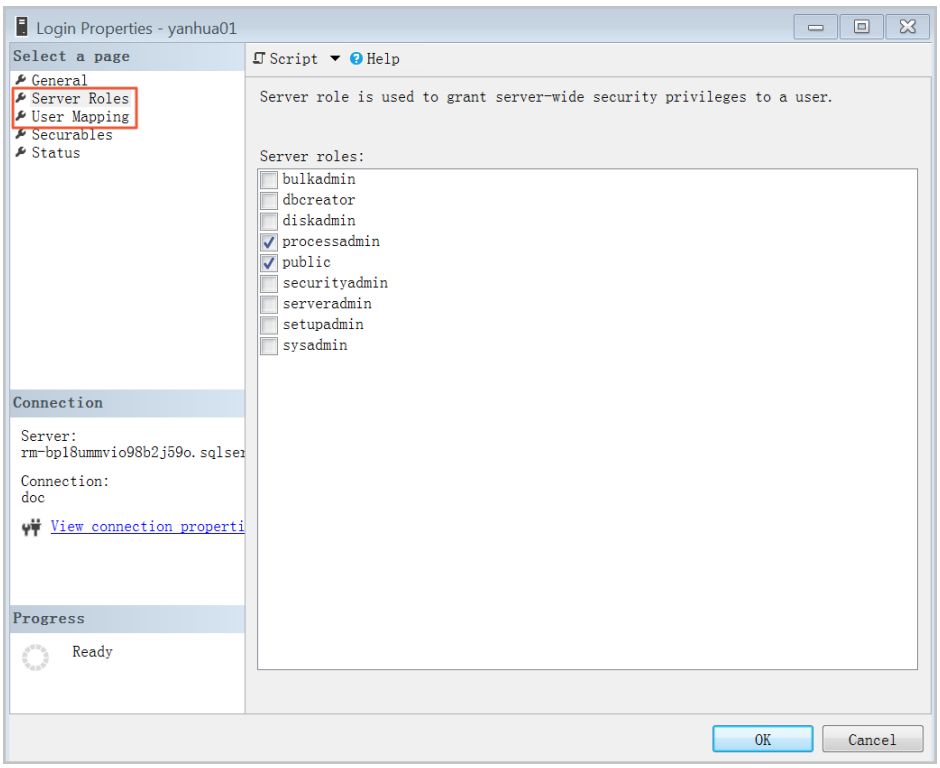


[OK] をクリックします。

新しいアカウントの作成が正常に終了すると、そのアカウントが [Security] > [Logins] に表示されます (下図を参照)。



新しいアカウントをダブルクリックしてプロパティを設定します。[Server Roles] タブページでこのアカウントを認証し、[User Mapping] タブページでアカウントを特定のデータベースにバインドできます (下図を参照)。



[OK] をクリックします。

インスタンスへの接続

SQL Serverクライアントを使用してRDSインスタンスに接続できます。この記事では、Microsoft SQL Server Management Studio（SSMS）クライアントを例として接続手順を紹介します。

背景情報

RDS for SQL Server は SQL Server と完全に互換性があるため、同じ方法を使用してデータベースに接続できます。この記事では、SSMS クライアントを例としてRDSインスタンスに接続します。他のクライアントを使用している場合でもこの方法を参照できます。クライアント経由でRDSインスタンスに接続する場合、接続アドレスの選択 を参照し、次の点を注意してください。

クライアントが同じリージョンにある ECS にインストールされ、接続する RDS インスタンスと同じネットワークタイプを使用している場合、イントラネットアドレスを使用します。

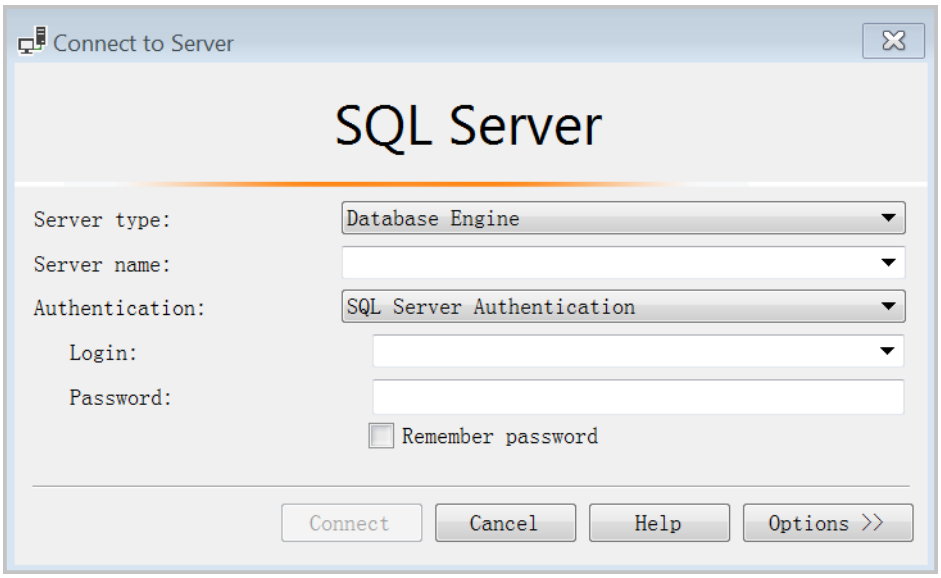
上記以外の場合はインターネットアドレスを使用します。

操作手順

RDSインスタンスにアクセスするIPアドレスをRDSホワイトリストに追加します。ホワイトリストの設定方法については、**ホワイトリストの設定** を参照してください。

Microsoft SQL Server Management Studioクライアントを起動します。

下記の図に示すように、接続情報を入力します。



パラメータの説明:

サーバータイプ: **データベースエンジン**を選択します。

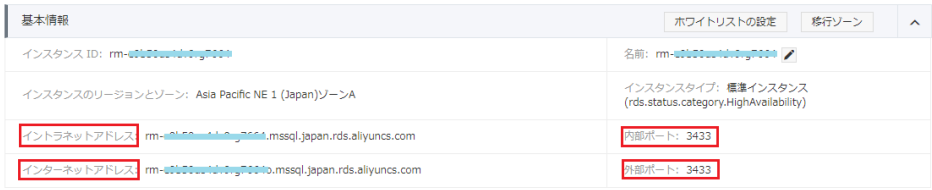
サーバー名: インターネット/イントラネット アドレスとポート番号で構成されます。 接続アドレスとポート番号はカンマで区切ります（例： rm-bptest.sqlserver.rds.aliyuncs.com、3433）。次は、RDS インスタンスの接続アドレスとポート情報を表示する手順を示します。

[RDS Console] にログインします。

対象インスタンスのリージョンを選択します。

インスタンスのIDをクリックして、「**基本情報**」ページにアクセスします。

[**基本情報**] ページでは、インスタンスのインターネット/イントラネットアドレスとインターネット/イントラネットポート番号を確認できます。



Authentication: [**SQL Server 認証**]を選択します。

Login: RDSインスタンスの初期アカウント名を参照します。

Password: RDSインスタンスの初期アカウントのパスワードです。

[**接続**] をクリックします。

付録

SQLサーバーバージョンの機能の違い

RDS SQL Server のインスタンス機能は、インスタンスのバージョンによって異なります。詳細は次のとおりです。

基本機能

データ管理機能

公式機能

基本機能

モジュール	機能	High-availability series		Basic series
		2016 Standard/Enterprise 2012 Standard/Ente	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web 2012 Enterprise

		rprise		
ライフサイクル	インスタンスの作成	サポート	サポート	サポート
	インスタンスの再起動			
	自動更新			
	課金方法の変更			
	仕様の変更			
	インスタンスのリリース			
	一時インスタンスの作成	未サポート	サポート	サポート
	エンジンバージョンのアップグレード	近日公開	近日公開	近日公開
	インスタンスのクローン作成	近日公開	未サポート	未サポート
	読み取り専用インスタンスの作成	未サポート	未サポート	未サポート
インスタンスのプロパティ	インスタンスリストの表示	サポート	サポート	サポート
	インスタンス詳細の表示			
	インスタンス説明の変更			
	メンテナンス時間の設定			
	インスタンスラベルの管理			
	別のゾーンに移行	未サポート	サポート	未サポート
データベース接続	VPC アドレス	サポート	サポート	サポート
	インターネットアドレス			
	読み取り/書き込み分割アドレス	未サポート	未サポート	未サポート
サービスの可用性	ゾーン内のディザスタリカバリ	サポート	サポート	サポート
	ゾーン外のディザスタリカバリ	サポート	サポート	未サポート
	リージョン外の	未サポート	未サポート	未サポート

	ディザスタリカバリ			
	ディザスタリカバリ訓練			
バックアップとリカバリ	完全バックアップ	サポート	サポート	サポート
	増分バックアップ			
	ログバックアップ			
	バックアップポリシーのカスタマイズ			
	バックアップセットによるリカバリ			
	時間によるリカバリ			
	外部バックアップファイルによるリカバリ	近日公開	サポート (完全バックアップ)	近日公開
	クローンインスタンス作成によるリカバリ	近日公開	未サポート	近日公開
	部分バックアップ	未サポート	未サポート	未サポート
	部分リカバリ			
モニタリングとアラーム	リソースモニタリング	サポート	サポート	サポート
	エンジンモニタリング			
	モニタリングのカスタマイズ			
	モニタリング項目の集計			
パラメーター管理	パラメーターの更新	サポート (T-SQL)	サポート	サポート (T-SQL)
	パラメーターテンプレート			
ログ管理	エラーログ	サポート (T-SQL)	サポート	サポート (T-SQL)
	システム実行ログ			

データ管理機能

モジュール	機能	High-availability series		Basic series
		2016 Standard/Enterprise 2012 Standard/Enterprise	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web 2012 Enterprise
データ管理	ユーザー管理	サポート (T-SQL)	サポート	サポート (T-SQL)
	データベースとテーブルの管理		サポート (T-SQL)	
	テーブルの操作			
	タスクのスケジュール			
データチャネル	同種データ移行	DTS でサポート	DTS でサポート	DTS でサポート
	異種データ移行			
	データ同期			
	データサブスクリプション	未サポート	未サポート	未サポート
データセキュリティ	IP アドレスホワイトリスト	サポート	サポート	サポート
	マネージメント監査			
	ファイアウォール	サポート (IP アドレスホワイトリスト)	サポート (IP アドレスホワイトリスト)	サポート (IP アドレスホワイトリスト)
	データベース監査	近日公開	サポート	近日公開
	ストレージの暗号化	未サポート	サポート	未サポート
	ネットワークの暗号化	未サポート	サポート	未サポート
	セキュリティグループ管理	未サポート	未サポート	未サポート
パフォーマンスの最適化	エキスパートサービス	サポート	サポート	サポート
	リソース分析	未サポート	未サポート	未サポート
	エンジン分析			
	エンジン/コードの最適化			

公式機能

SQL Server Web、Standard、および Enterprise の機能の違いは次のとおりです。

<table>
<tr><th>項目</th><th>Web</th><th>Standard</th><th>Enterprise</th></tr>
<tr><td>仕様</td><td>16 コア 64 GB</td><td>24 コア 128 GB</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>High availability</td><td>シングルホスト</td><td>Mirror HA</td><td>AlwaysOn availability</td></tr>
<tr><td>データ圧縮</td><td rowspan="10">未サポート</td><td rowspan="3">サポート</td><td rowspan="10">サポート</td></tr>
<tr><td>SQL Profiler</td></tr>
<tr><td>列インデックス</td></tr>
<tr><td>テーブル/インデックスのパーティション化</td><td rowspan="2">SQL Server 2016 ではサポート
SQL Server 2012では未サポート</td></tr>
<tr><td>CDC</td></tr>
<tr><td>オンライン DDL</td><td rowspan="5">未サポート</td></tr>
<tr><td>パラレル検索</td></tr>
<tr><td>パーティションテーブルの並列性を調整</td></tr>
<tr><td>TDE</td></tr>
<tr><td>高度な R 統合</td></tr>
</table>

- SQL Server 2016 Edition (Web/Standard/Enterprise) の機能の違いの詳細については、「SQL Server 2016 エディションのサポート対象機能 」をご参照ください。
-
- SQL Server 2012 Edition (Web/Standard/Enterprise) の機能の違いの詳細については、「SQL Server 2012 エディションのサポート対象機能 」をご参照ください。

SQL サーバーバージョン間の API の違い

インスタンス管理

<table>
<tr><th rowspan="2">API</th><th rowspan="2">API の説明</th><th colspan="2">High-availability series</th><th>Basic series</th></tr>
<tr><td>2016 Standard/Ente</td><td>2008 R2 Enterprise</td><td>2016 Web
2012 Web</td></tr>
</table>

		rprise 2012 Standard/Enterprise		2012 Enterprise
CreateDBInstance	RDS インスタンスの作成	サポート	サポート	サポート
RestartDBInstance	RDS インスタンスの再起動	サポート	サポート	サポート
DeleteDBInstance	RDS インスタンスのリリース	サポート	サポート	サポート
DescribeDBInstanceAttribute	RDS インスタンス詳細の表示	サポート	サポート	サポート
DescribeDBInstances	RDS インスタンスリストの表示	サポート	サポート	サポート
ModifyDBInstancePayType	課金方法の変更	サポート	サポート	サポート
ModifyInstanceAutoRenewalAttribute	自動更新の設定	サポート	サポート	サポート
ModifyDBInstanceSpec	インスタンス仕様の変更	サポート	サポート	サポート
ModifyDBInstanceDescription	インスタンス説明の変更	サポート	サポート	サポート
ModifySecurityIps	IP アドレスホワイトリストの変更	サポート	サポート	サポート
DescribeDBInstanceIPArrayList	IP アドレスホワイトリストの表示	サポート	サポート	サポート
PurgeDBInstanceLog	インスタンスログの消去	サポート	サポート	サポート
ModifyDBInstanceMaintainTime	メンテナンス時間の変更	サポート	サポート	サポート
AllocateInstancePublicConnection	インターネットアドレスの申請	サポート	サポート	サポート
ReleaseInstancePublicConnection	インターネットアドレスのリリース	サポート	サポート	サポート
ModifyDBInstanceConnectionString	アドレスの変更	サポート	サポート	サポート
DescribeDBInstanceNetInfo	すべてのアドレスを表示	サポート	サポート	サポート

DescribeRegions	リージョンとゾーンの表示	サポート	サポート	サポート
SwitchDBInstanceHA	アクティブ/スタンバイ状態の切り替え	サポート	サポート	未サポート
ModifyDBInstanceHAConfig	レプリケーションと高可用性ポリシーの変更	サポート	サポート	未サポート
DescribeDBInstanceHAConfig	レプリケーションと高可用性ポリシーの表示	サポート	サポート	未サポート
ModifyDBInstanceNetworkType	ネットワークタイプの変更	未サポート	サポート	サポート
DescribeDBInstanceTDE	データ暗号化状態の表示	未サポート	サポート	未サポート
ModifyDBInstanceTDE	データ暗号化状態の変更	未サポート	サポート	未サポート
DescribeDBInstanceSSL	SSL リンクの表示	未サポート	サポート	未サポート
ModifyDBInstanceSSL	SSL リンクの変更	未サポート	サポート	未サポート
ModifyDBInstanceConnectionMode	アクセスモードの変更	未サポート	サポート	未サポート
MigrateToOtherZone	インスタンスを別のゾーンに移行	未サポート	サポート	未サポート
CreateReadOnlyDBInstance	読み取り専用インスタンスの作成	未サポート	未サポート	未サポート
SwitchDBInstanceNetType	イントラネットアドレスの申請 (旧 “ネットワークタイプの切り替え”)	未サポート	未サポート	未サポート
UpgradeDBInstanceEngineVersion	インスタンスエンジンのバージョンをアップグレード	未サポート	未サポート	未サポート

データベース管理

API	API の説明	High-availability series		Basic series
		2016 Standard/Ente	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web

		rprise 2012 Standard/Enterprise		2012 Enterprise
CreateDatabase	データベースの作成	未サポート	サポート	未サポート
DeleteDatabase	データベースの削除	未サポート	サポート	未サポート
DescribeDatabases	データベースリストの表示	未サポート	サポート	未サポート
ModifyDBDescription	データベース説明の変更	未サポート	サポート	未サポート

アカウント管理

API	API の説明	High-availability seris		Basic series
		2016 Standard/Enterprise 2012 Standard/Enterprise	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web 2012 Enterprise
CreateAccount	アカウントの作成	サポート	サポート	サポート
DescribeAccounts	アカウントリストの表示	サポート	サポート	サポート
ModifyAccountDescription	アカウント説明の変更	サポート	サポート	サポート
ResetAccountPassword	アカウントのパスワードをリセット	サポート	未サポート	サポート
DeleteAccount	アカウントの削除	未サポート	サポート	未サポート
GrantAccountPrivilege	アカウントにアクセス許可を与える	未サポート	サポート	未サポート
RevokeAccountPrivilege	アカウントから許可を削除	未サポート	サポート	未サポート
ResetAccountPassword	アカウントのパスワードをリセット	未サポート	サポート	未サポート

バックアップとリカバリ

API	API の説明	High-availability series		Basic series

		2016 Standard/Enterprise 2012 Standard/Enterprise	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web 2012 Enterprise
CreateBackup	バックアップの作成	サポート	サポート	サポート
DescribeBackups	バックアップリストの表示	サポート	サポート	サポート
DescribeBackupPolicy	バックアップポリシーの表示	サポート	サポート	サポート
ModifyBackupPolicy	バックアップポリシーの変更	サポート	サポート	サポート
RestoreDBInstance	バックアップセットをインスタンスに復元	未サポート	サポート	サポート
CreateTempDBInstance	一時インスタンスの作成	未サポート	サポート	サポート
DeleteBackup	バックアップファイルの削除	未サポート	未サポート	未サポート
CloneDBInstance	インスタンスのクローン作成	未サポート	未サポート	未サポート

モニタリング

API	API の説明	High-availability series		Basic series
		2016 Standard/Enterprise 2012 Standard/Enterprise	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web 2012 Enterprise
DescribeResourceUsage	リソース使用状況の表示	サポート	サポート	サポート
DescribeDBInstancePerformance	パフォーマンスデータの表示	サポート	サポート	サポート
DescribeDBInstanceMonitor	モニタリングポリシーの表示	サポート	サポート	サポート
ModifyDBInstanceMonitor	モニタリングポリシーの変更	サポート	サポート	サポート

パラメーター設定

API	API の説明	High-availability series		Basic series
		2016 Standard/Enterprise 2012 Standard/Enterprise	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web 2012 Enterprise
DescribeParameterTemplates	データベースパラメーターテンプレートの表示	未サポート	サポート	未サポート
DescribeParameters	パラメーターリストの表示	未サポート	サポート	未サポート
ModifyParameter	パラメーターリストの変更	未サポート	サポート	未サポート

パフォーマンスの最適化

API	APIの説明	High-availability series		Basic series
		2016 Standard/Enterprise 2012 Standard/Enterprise	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web 2012 Enterprise
DescribeSQLLogReports	SQL ログレポートの表示	未サポート	未サポート	未サポート
DescribeOptimizeAdviceOnMissIndex	足りないインデックスの提案	未サポート	未サポート	未サポート

ラベル管理

API	APIの説明	High-availability series		Basic series
		2016 Standard/Enterprise 2012 Standard/Enterprise	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web 2012 Enterprise
AddTagsToResource	インスタンスにラベルを追加	サポート	サポート	サポート
DescribeTags	ラベルの表示	サポート	サポート	サポート

RemoveTagsFromResource	インスタンスからラベルを削除	サポート	サポート	サポート

データ移行

API	API の説明	High-availability series		Basic series
		2016 Standard/Enterprise 2012 Standard/Enterprise	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web 2012 Enterprise
CreateUploadPathForSQLServer	ファイルのアップロードパスを取得	未サポート	サポート	未サポート
DescribeFilesForSQLServer	データファイルリストの表示	未サポート	サポート	未サポート
DescribeImportsForSQLServer	インポートリストの表示	未サポート	サポート	未サポート
ImportDatabaseBetweenInstances	データベースを別のインスタンスに移行	未サポート	サポート	未サポート
CancelImport	移行のキャンセル	未サポート	サポート	未サポート
DescribeOssDownloads	移行されたファイルの詳細を表示	未サポート	未サポート	サポート
CreateMigrateTask	データ移行タスクの作成	未サポート	未サポート	サポート
DescribeMigrateTasks	データ移行タスクの一覧を表示	未サポート	未サポート	サポート

Log audit

API	API の説明	High-availability series		Basic series
		2016 Standard/Enterprise 2012 Standard/Enterprise	2008 R2 Enterprise	2016 Web 2012 Web 2012 Enterprise
DescribeSlowLogs	スロー SQL ログリストの表示	未サポート	サポート	未サポート
DescribeSlowL	スロー SQL ロ	未サポート	サポート	未サポート

ogRecords	グの詳細を表示			
DescribeErrorLogs	エラーログの表示	未サポート	サポート	未サポート
DescribeSQLLogFiles	SQL 監査ファイルリストの表示	未サポート	サポート	未サポート
DescribeSQLCollectorPolicy	SQL 監査の有効化状況の表示	未サポート	サポート	未サポート
ModifySQLCollectorPolicy	SQL 監査の有効化状況の変更	未サポート	サポート	未サポート
DescribeSQLLogRecords	SQL 監査ログの表示	未サポート	サポート	未サポート
DescribeBinlogFiles	BINLOG の表示	未サポート	未サポート	未サポート